

知事記者会見の概要

日 時：令和4年6月29日(水) 10:00～10:55

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 地震に対する防災・減災対策について

フリー質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (2) 電力ひっ迫注意報等への対応について
- (3) 電力安定供給に向けた原発再稼働について
- (4) 宮城県川崎町における風力発電計画の住民説明会について
- (5) 第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会について
- (6) 参議院議員選挙への対応について
- (7) 渇水対策について
- (8) 屋内スケート場及び県立博物館の整備について
- (9) 加藤条治氏への山形県県民栄誉賞の贈呈について
- (10) 米沢トンネル（仮称）の整備について

< 幹事社：YBC・産経・毎日 >

☆報告事項

皆さん、おはようございます。

まずはですね、大雨の状況ということになります。先日の大雨の状況について、申し上げます。

このたびの大雨では、6月27日の1日の降水量が、新庄で198.5ミリ、最上町の瀬見で183.5ミリ、向町で149.0ミリと県内の3つの観測地点で、6月の観測史上最大を記録しました。

こうした中、6つの市町において避難指示や高齢者等避難が発令されました。結果として、発令のなかった一つの町も含め、7つの市町に22箇所の避難所が開設され、233名の方が避難されたとの報告を受けております。現在のところ、人的被害はありませんで、新庄市や最上町では、床上・床下浸水で6棟の住家被害が報告されております。

まずもって、今回の大雨により被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

なお、被害につきましては、現在も調査中であります。引き続き、情報の把握に努めてまいりたいと考えております。

県では、このたびの大雨の予報に際しては、市町村に対し、警戒を呼びかける通知を発出しましたほか、Twitterで県民の皆様へ呼びかけを行うとともに、各部局等での情報共有と連携を図るため警戒対策連絡会議を開催いたしました。

当日は、河川の水位や被害情報収集のための警戒配備体制をとって、対応にあたったところです。引き続き緊張感をもって対応してまいりたいと考えております。今後も、このような大雨などの災害がいつ発生してもおかしくない状況であります。県民の皆様には、御自身が住んでおられる地域の避難所や避難経路の確認、食料品の備蓄など、日頃から災害に備えていただきますよう、お願いします。

次にですね、熱中症への注意喚起について申し上げます。今日も大変暑くなっております。県内では、先週の金曜日から真夏日が多く、大変暑い日が続いているところです。

先週1週間（6月20日～26日）に、熱中症で救急搬送された方は39名となっております。本日以降も30℃以上の大変暑い日が続くことが予想されております。

新型コロナ予防のため、県民の皆様には、場面や状況に応じたマスクの着用をお願いしておりますが、マスクを着けますと、熱中症のリスクが高まります。県教育委員会では、児童生徒に対し、熱中症リスクが高い体育の授業や運動部活動中、登下校時などの場面では、熱中症対策を優先して、マスクを外すよう指導しているところです。

県民の皆様、特にご高齢の方々には、熱中症にならないよう、こまめな水分補給をしていただきますようお願い致します。屋外では状況に応じてマスクを外し、屋内ではエアコンを適切に使用するなど、くれぐれも御注意いただきたいと思います。

次は新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者数はいまだに高い水準にあり、いくつかの地域では増加傾向も見られるところではあります。

本県では、6月2日以降、新規感染者数は二桁の日が続いておりますが、直近1週間では前の週を上回る日も多くなっております。クラスターも8日連続で発生しているなど、未だ収束には至っていない状況であります。

また、昨日公表しましたが、県内で第1例目となる新型コロナウイルスのオミクロン型変異株の系統の一つであります「BA.5」変異株が、6月中の感染事例からゲノム解析により判明いたしました。このオミクロンBA.5は、BA.2よりも感染が強い可能性があると言われております。今後、感染が再び拡大する可能性が懸念されるところであります。

明後日から7月になりますが、三連休や夏休みなどで人流が増加し、人と接触する機会も多くなることから、県民の皆様には、引き続き、場面に応じた不織布マスクの正しい着用や、ゼロ密、換気の励行、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

加えまして、感染防止・重症化防止対策の要でありますワクチン接種につきましては、順調に接種が進んでおり、3回目接種が全体で7割を超えたところです。希望される皆様には、できるだけ早く3回目または4回目を接種していただきますようお願いいたします。

それからですね、国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会について申し上げます。令和6年2月に本県で開催される予定の、第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会の山形県実行委員会を6月24日金曜日に設立し、大会開催に向けた本格的な準備がいよいよスタートしました。

これまでの「国民体育大会」という名称が、令和6年から「国民スポーツ大会」に改められます。「国体」が「国スポ」に改められるということで、そういうふうに変更されてから、初めて行われるスキー競技会を本県で開催することになります。

テーマを『やまがた雪(ゆき)未来(みらい)国スポ』、スローガンを『一瞬の風になり 叶えよ君の夢』に決定しました。大会開催を通して山形県の魅力を全国に発信し、県民の皆様とともに、おもてなしの心で本大会を盛り上げていきたいと考えております。

なお、この大会テーマを象徴するシンボルマークの募集を始めました。期限を8月5日までとしておりますので、奮ってご応募いただきたいと思います。マスコミの皆様には、ご周知またよろしくをお願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

おはようございます。毎日新聞の熊田です。よろしく申し上げます。大雨もありまして、防災への備えということが実感として迫ってきている状況なんですけれども、先日の19日には北陸の能登半島のほうで大きな地震がありまして、その後も今月26日には熊本で

震度5弱の地震等がありました。山形県内でも3年前の6月に、鶴岡市で震度6弱の大きな地震があったのは、県民の皆さんも記憶に新しいかと思います。県では、防災会議、防災計画等策定があり、それに沿った形で防災・減災の備え等が検討されてると思いますけれど、県内では主に4つの活断層があって、地震の備えをしなければならないという話も、これも県民の方々が知ってると思うんですけども、今回の能登半島の地震等はその活断層とはまた別の形での地震というような形で、いろんな観点から地震への備えっていうのを実感しなきゃいけないというふうな思いをしている方も多いと思います。県としての、地震に関しての防災・減災の取組み、県民の方々にお伝えしたい事がありましたら教えてください。

知事

はい、わかりました。今年に入り、3月の福島県沖を震源とする最大震度6強の地震がありました。6月には石川県能登地方での最大震度6弱の地震や、熊本県熊本地方での最大震度5弱の地震など、大きな地震が頻発しているところです。

今、記者さんがおっしゃったように、本県でも令和元年6月の山形県沖地震がありました。最大震度6弱を記録し、多くの被害が発生しました。地震の発生を防ぐことはできませんが、できるだけ被害を抑える「減災」の考え方を基本に、災害に強い山形県を目指し、県と市町村、関係機関、県民が一体となって取組みを進めてきております。

具体的には、平成28年3月に「山形県強靱化計画」を策定しまして、防災拠点となる市町村役場庁舎などの耐震化の推進、また学校や住宅などの耐震化促進、橋梁や水道施設の耐震化・老朽化対策、集中的かつ計画的なため池の整備など、地震に強い県土づくりを推進しております。

そうしたハード面での対策と同時に、大規模な地震が発生した場合には、地域における防災力の向上というのが不可欠になります。そのため、地域社会の災害対策活動の中核を担う自主防災組織の活性化や、避難所運営の中心的役割を担う防災士の養成など、地域の担い手づくりを進めております。

また、障がい者や高齢者など避難の際に支援が必要な方について、具体的な避難方法を定める個別避難計画の作成が求められておりますので、市町村と県が一緒になって計画作成に向けた取組みを進めているところです。

防災につきましては、こうした「公助」「共助」に加え、自らの命は自らが守る「自助」の考え方も大切になってまいります。県民の皆様には、御自宅で家具類の転倒や落下を防止するために、そういったものをしっかりと固定することや、普段から水や食料を少し多めに買って、消費した分だけ買い足すことで一定量を無理なく備蓄する「ローリングストック」を実践していただくなど、防災・減災につながる取組みをできる範囲で行っていただきますようお願いいたします。

そして、災害はいつ起こるか分からないということを心に留めていただきまして、いざ

というときにどう行動するか日頃から考えておくなど、非常時でも慌てず冷静な対応をとれるように備えていただきたいと思います。

記者

ありがとうございました。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

河北新報の原口です。お疲れ様です。

先ほどの熱中症とマスクの関係の話だったんですけども、県のほうも状況に応じたマスクの着脱というのは指針は出しているんですけども、報道とかによりますと、マスク生活も長引いたりということで、なかなか脱マスクが進んでいないという状況もあるというように伺っております。先日宮城県の村井知事のほうで、県職員が率先して外を歩く時はマスクを外すようにしていきたいというお話をされたということなんですけれども、知事のほうから率先して、そういうマスクの適切な着脱というのをですね、訴えかけていくということはあるかどうか教えてもらいたかったんですけども。

知事

本県の場合、熱中症ということで大変心配をしているわけでありまして、山形県の夏は蒸し暑いというようなこともありますので、場面に応じて、特に屋外では、マスクを外して良い場面がたくさんあるというようなことを申し上げているつもりではありますけれども、コロナとの兼ね合いと言いますか、最近またこの1週間ほど、(新規感染者数が)ちょっと増え気味というようなところもありますので、率先してすぐ外すことを奨励するということまではちょっといっていないのが現状であります。クールビズということで、ネクタイを付けないというような、涼しい格好で業務を行うというようなことは奨励しておりますが、マスクを率先して外すというところまでは、ちょっと申し上げていないところです。この新型コロナの状況を見ながら、考えていきたいというふうに思っております。

記者

あと、すいません、もう1点。まず、暑さに関することなんですけれども、昨今の暑さもあって、電力がひっ迫しているとの各報道であって、東北電力も明日、ちょっとひっ迫するんじゃないかって話もあると思うんですけども、それに対して県民に節電の呼びかけとかですね、あと国が言ってる節電ポイントという取組みについての評価を教えてくださいたいんですが。

知事

はい、今日は29日ということで、本日29日の電力需給の予備率が5%以上確保できる見込みとなったということで、需給ひっ迫注意報は発令されなかったとお聞きをしておりますが、明日、30日に対しても引き続き、需給ひっ迫準備情報が発表されております。このような電力需給ひっ迫は今後も起こり得ると考えております。

県としましては、需給ひっ迫注意報などが発令された場合、市町村や関係団体と連携し、SNSや県のホームページ、各種メディアにより、県民の皆様や事業者の皆様に対して、熱中症にならないよう注意をしながら、エアコンは適切に使うということ、目安としては28℃というようなことですね、でも本当に熱中症にならないということで、適切にお使いになっていただきたいと思っています。

それから、使用していない照明はこまめに消すということや、使っていないコンセントは抜くといったことなど、できる限りの節電について呼びかけてまいりたいというふうに考えております。

記者

あと、すいません、節電ポイントっていう取組みについては、どうお考えですか。

知事

節電ポイントという内容をですね、しっかりと噛み砕いて、参考にしながら、考えていきたいというふうに思っています。

記者

NHK、金敷です。

今の電力の関係で1点だけ伺わせてください。県として、節電の対応とか、考えていることがあればお伺いしたいんですが。

知事

はい、県としてやっていることは、やはりクールビズということを徹底しながら、エアコンの設定は28℃ということで、これまでも通ってきております。そして、繰り返しになりますけども、使用していない照明はこまめに消すといったこと、それから昼休みも結構節電をしております。また、使っていないコンセントは抜くといったことで、本当にこまめなことをですね、積み重ねて節電をするというようなことに尽きるかなというふうに思っております。補足として、担当の人おりますかね。県庁としてやっていることで。

環境エネルギー部次長

環境エネルギー部でございます。県有施設におきましては、今、知事からもありましたが、

不要な照明をこまめに消す、あとは県庁舎ですと、エレベーターということで職員が利用する際ですけれども、例えば上りは4階まで下りは6階までは階段を利用するといった、職員に対しての呼び掛けですね、こちらエコオフィスの取り組みを実施しているわけですが、それを徹底するということに加えて、発令された場合は、そのような状況になるかどうかですけれども、例えば中央エレベーターの稼働台数を減らすですとか、あとは日照に応じて、廊下や執務室の照明を最小限にするなどのできる限りの節電に取り組んでまいりたいと考えております。

記者

はい、ありがとうございます。今、お話ありましたがエレベーター等、発令されたらっていう見直しもあるということですが、エアコンの設定に関しても職員の方の体調も気にしながらやっていただけたらなと、我々記者クラブにいても暑いと思う日も、正直言うとあつたりもしますので、よろしくをお願いします。

知事

そうですね。はい、ありがとうございます。

記者

NHKの桐山と申します、よろしくをお願いします。

また電力関係で、このところ、この春から夏にかけて、福島の火力発電所が地震の影響で動かないこともあって、全国的に、東北電力管内でも、電気の需給状況がひっ迫しているという状況でございます。そもそものところかというと、考え方として、再生エネルギーの比率が高まってしまって、太陽光が特に比率が大きいので、夕方になって日光が届かなくなった頃に、電力の需給が特にひっ迫するという状況であると思います。その一方で、カーボンニュートラルもやっていかなきゃいけないということで、県としても県内の各自治体と連携して、カーボンゼロ宣言というのもされてます。一方では、県内には火力発電所もあって、夜間も安定して一定の電力量がある火力発電所・原子力発電所の重要性というのをもまた見直す契機でもあるのかなと思っております。県としては、カーボンゼロ宣言と、こうした電力のひっ迫を受けてですね、何かトータルでエネルギーについての考え方、見直していくということ、考えていくということ、何かお考えございましたらよろしくをお願いします。

知事

はい、再生可能エネルギーにつきましては、まだまだ足りないというふうに思っております。まだまだ増やしていくべきだと思いますし、併せてですね、日本はイノベーションが得意な国だと思いますので、高度経済成長の時には、本当にイノベーションがどんどん行われたと思いますけれど、省エネということで、もっと技術革新が行われて、そういったこと

でもカーボンニュートラルに資するようになればいいなというふうにも思っているところ
です。

何が悪い、何が良いということではないんですけども、やはり私は「卒」原発というよ
うなことは申し上げてきております。それが「脱」原発ではないわけですね。今すぐ止めろ
とかいうことではなくて、ビジョンとして将来しっかり卒業するというような青写真を描
きながらも、やはり目の前のケースバイケースの状況があるわけですから、そこを乗り越え
ていかなきゃいけないというのがありますので、再生可能エネルギーを増やしつつですね、
火力も使わなければいけない時もありますし、いろいろなことを組み合わせながらですね、
電力ミックスというようなことで、将来の世代に安全安心な社会を伝えていくというよ
うなことは、やはり大事なことかなと思っております。今、記者さんがおっしゃったように、
火力発電が悪者というようなことではなくて、やはり必要な時には必要なんでありまして、
大変心配をされましたけれども、地震で稼働できなくなった所も、再稼働できそうだという
ようなニュースなどもちょっと耳にしておりますので、電力ひっ迫は段々と解消されるの
ではないかというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございます。そして、今、将来的には卒原発で再生可能エネルギーのですね、
割合を増やしていかなければいけないということもおっしゃっていましたが、今後、県と
して再生可能エネルギーでどんどん促進していくためにですね、何か仕掛けていくこと、こ
ういうことをやっていきたいというようなことが、もしございましたらよろしく願いま
します。

知事

そうですね、仕掛けていくというようなことまでではないんですけども、先ほど申し上
げたイノベーションというようなこと、省エネの技術ですね。そういったことに力を入れる
ことで、カーボンニュートラルという方向に向いていけると思っておりますので、県として今、
できることと言いましたらば、パワーアップ補助金というようなこととかですね、産業に対
しての支援というようなことも行いながら、やはりイノベーションを促進していきたいと
いうふうに思っています。そのことがやっぱり、日本の強さにまたなっていくと思ひますし、
世界に冠たる技術立国ということはやはりしっかりと国として取り組むべきではないかな
というふうに思っているところです。

あと、農業もですね、どうやったら省力、省エネ、いろんなことを現場のお話をお聞きし
ながらではありますけれども、できる限りのことを取り組んでいければというふうに思っ
ています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

TUY の結城と申します。お世話になっております。

宮城県の川崎町に建設が予定されているというか、計画が進んでいる関西電力の風力発電施設に関してですね、先日、蔵王温泉観光協会が、全会一致で反対の決議をして、それを山形市長宛て、市議会議長宛てに文書を提出したということがありました。

それについての知事のご所感と、それに加えて今こういった電力状況の中で、やはり再生可能エネルギーが必要になってくるということはまず間違いないわけで、そういうことに関しての協力体制も含めてですね、そういった方面での知事のご所感等お聞かせ願いますでしょうか。

知事

はい。宮城県川崎町において計画されている風力発電事業の計画につきまして、事業者であります関西電力が、6月27日に蔵王地区で住民説明会を開催したということは、マスコミの報道により承知をしているところです。

ただ、県としましては、現在、環境影響評価法に従って、山形県環境影響評価審査会の答申をお待ちしているところです。それから地元、山形市長の意見もお聞きする予定であります。そういったことを踏まえて、事業者に対し環境保全の見地から意見を述べる手続きの最中でございます。そういうことでもありますので、この場で個別の意見へのコメントというのは差し控えさせていただきたいというふうに思っております。

記者

わかりました。住民がそういった意思を示したということに関しては、山形県知事としてはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

知事

そうですね、多分、山形市の住民の方々でありますので、山形市長からご意見をお聞きする時に、それが出てくるというふうに思っております。しっかりと尊重すべきだろうというふうに私は思っております。

記者

ありがとうございます。そしてもう1点なんです、ワクチンの接種状況、3回目の接種率が7割を超えたというお話が冒頭ございました。新しくワクチンを開発されている会社ですね、新しいワクチンに関しては、オミクロン株に関しての適応も一部認められるとい

う報道もある中なんですけれども、今後のワクチン接種の重要性については、知事改めてどのようにお考えになっていらっしゃるのか、県民への呼びかけも含めて、御所感をお聞かせください。

知事

はい、ワクチン接種はですね、やはり新型コロナウイルス感染症を収束に持っていく上で、本当に要になるものというふうに思っています。そういうことでありますので、県と市町村とで緊密に連携しながら、ワクチン接種を進めていきたいと思っています。県民の皆様の3回目は7割以上ということですけども、4回目も始まっておりますので、県としても、バスによる巡回での接種というようなことも始めますので、いろいろな機会がございますので、是非お早めに接種を受けていただきたいと思っています。いろいろな変異株が出てまいりますので、ワクチン接種も進めながら、このコロナの難関を一緒になって乗り越えていきましょうというふうに申し上げたいと思います。

記者

ありがとうございます。ワクチンの接種に関しては、4回目以降の接種が必要だというふうな声もある中で、コロナへの慣れもあるのかどうか、あるいは副反応ですとか、そういったものへの不安もある方も非常に増えてまして、4回目以降の接種に対しては躊躇するというふうな声も、実は私の周りでも非常に聞かれ始めています。そういった状況もある中での、ワクチン接種の推進ということに関しては、知事は引き続きどのようなお考えをお持ちなのか、あるいはそういった不安を持たれている方への対策等は何かお考えなのか、その辺りもお聞かせいただけますでしょうか。

知事

はい、今記者さんがおっしゃったようなことは、私もちょっと感じておりまして、私自身は4回目を接種受けるつもりでおりますが、特に若い方で4回目躊躇しておられるというような声は少し聞こえてまいります。感染したところで軽い症状であるし、副反応が起こるよりも受けないほうがいいんじゃないかというような方もいるというようなことも聞いておりますけれども、ただ、その方自身はそうかもしれないんですけども、高齢の方とか、慢性疾患をお持ちの方とか、いろんな方がやはり身近にもおられると思いますので、できる限り(4回目の)接種を受けていただければというふうに、私の立場としては思っているところであります。

記者

わかりました。ありがとうございました。

記者

読売新聞の吉田です。

冒頭発表ありました、国民スポーツ大会のテーマとスローガンが決まったということですが、これに込めた思いとかですね、狙いみたいなのがあればお聞かせ願えますでしょうか。

知事

はい。テーマが『やまがた雪(ゆき)未来(みらい)国スポ』であります。スローガンが『一瞬の風になり 叶えよ君の夢』でございます。

冬季大会スキー競技会でありまして、蔵王とそれから最上町の確か赤倉温泉スキー場、この二つの会場になるかと思えますけれども、本県は雪国だということを強く意識をして、「雪」を入れたのが非常にいいですねというふうに思いました。しかもですね、この「雪未来」ということで、マイナスにだけ受け止めるのではなくて、「雪」ということでスポーツもできるし、観光にもなるというようなそのプラスイメージもこれを出していければというふうに思っています。

その中でスローガンが『一瞬の風になり 叶えよ君の夢』ですから、本当にもう日頃の努力・鍛錬というものをですね、その本番の一瞬の時にしっかりと発揮していただいて、力の限りを尽くして、良好な成績で選手の皆さんに頑張ってもらって取り組んでいただくというような、本当に若々しい爽やかな雰囲気が出たのではないかなというふうに思っているところです。大変良い言葉を応募してくださって、本当にありがとうございますと申し上げたいです。

記者

話題変わって、参院選で伺います。公示されて1週間経ちまして、各種報道で戦況というか情勢など伝えられておりますけれども、知事が恩返しという表現をされた舟山(康江)さんに対してですね、知事御自身が、あとは後援会を通じてですね、何かされたり、あるいはこれからされようと思っているようなことがあれば教えてください。

知事

はい。確か前回も熟慮しておりますというふうに申し上げたと思えますけれども、私がどういった形で、あるいは時期とかですね、そういったことについてはまだ熟慮中ということでございます。

記者

あと、知事が支援、恩返しを表明された一方で、その数日前にですね、大内(理加)候補を応援するという市町村長の会というのが発足しておりまして、県内35市町村のうち29市町村長がその応援に賛同しているという動きがあります。

それで、そのうちの首長さんなんかはですね、候補の街頭演説なんかで、やはり政権与党とのつながりというか、予算だとか、そういったことに対する期待を込めての支援だとか、そういったことに対する発言が演説中であったりするんですけども、様々お考えはあると思うんですけども、そういったことに対する知事の受止めというか、そういう市町村長のお考えだとかっていうのが演説なんかで示されていることに対して何か感じるようなところがあればお聞かせください。

知事

はい。その市町村長の方々がですね、どなたがどういう演説をされたかというのはちょっと承知をしておりませんので、なんとも言えませんが、承知をしているとしてもですね、それぞれのお考えがあって、やはり演説をされていると思いますので、私から特にコメントすることはないところでございます。

記者

ありがとうございます。

記者

共同通信の阪口です。お疲れ様です。

今年はまだ、今日どういう状況かわかりませんが、南のほうはかなりもう梅雨明けが進んでおりまして、西日本は特に渇水なんていう心配があると言われておりますけれども、今、山形県内はどういう状況なのか、そういう心配があるのかどうか、もし把握されていれば教えてください。

知事

そうですね、ここ数日、とにかく雨が大変多く降りました。今のところ渇水というようなことはまったくお聞きをしていないところであります。

今後の天気予報も、毎日のように見ておりますけれども、雨マークがですね、やはりまた来るようであります。気温が高い、そして雨マークもあるというようなことで、東北地方はまだ梅雨が続くのかなということでもありますので、渇水については今のところ心配をしておりますけれども、その後どういうふうな天候が続くのか、むしろ渇水というよりは洪水だったり、土砂崩れだったり、大雨による災害、そのことをちょっと今のところは大変警戒をし、心配をしているところです。

記者

山形新聞の田中です。

県立博物館と屋内スケート場のことについてお聞きしたいと思います。来月、7月上旬に

ですね、有識者による意見交換会というものが、1日と3日、5日、すいません、ちょっと2つ目は何日か忘れましたが（補足：7月1日に「山形県立博物館移転整備に向けた有識者懇談会」、7月5日に「屋内スケート施設あり方検討会議」が開催される予定）、いずれにしても来月上旬に予定されております。知事は、これまで有識者とか学識経験者、そういった方々の意見を踏まえてですね、今後の整備のあり方を検討するというお話をされておりますけれども、その意見交換会、懇談会の中でですね、どのような議論がなされることを期待されているのか、もしくはどのような点に注目されながら今後検討の判断材料にされようと思っ
ているのか、教えていただければと思います。

知事

そうですね、やはり博物館、またスケート場というようなことで、やはり大変県民の皆さん、それぞれのスポーツ業界の皆さんも大変御期待の大きいところだと思います。

私のほうは、やっぱり予算などというようなことは本当に心配なところではあるのですが、やはり皆さんがどういう内容のその施設が望ましいのかといったことをですね、忌憚のないそれぞれの視点から、御発言いただければ大変ありがたいというふうに思っています。

やはり、もう全国あるいは世界といった広い視野を持ってですね、山形県の宝であったり、その力というものになればいいなと思っておりますし、また県民の皆さんが楽しんでいただける、そして県外からもお越しいただけるというような、そういった施設を目指していただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。懇談会の前なので、あまり余談を言うと意見に影響するかもしれないのでこの程度に留めますが、もう一つ、この間の6月定例会でも議論があった、学芸員であるとかですね、いわゆるそういう、どういったコンセプト、側（がわ）だけではないその魅力をどうやって確認して深めて発信していくのかという、人材とかですね、そういったソフト面も重要になるかと思えます。来年度以降に向けてのことになるかと思えますけれども、そういった人づくりとかですね、確保・育成というものに関して、その施設の整備のあり方とともに知事はどのように今お考えになっておられますか。

知事

はい。ハード、ソフト両方ともに大変重要だと思っておりますので、例えばその施設ができてから人材を確保するというようなことではなくて、できる限り早め早めにですね、例えば学芸員の方というようなことでは、意外にも、あまりいないということがわかったものですから、しっかりとその人材育成、人材確保といったことに、できるだけ早く着手すべきだろうというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございました。

昨日、県民栄誉賞に加藤条治選手が8人目ということで選ばれて、知事も談話を発表されておられます。山形の冬季オリンピックの、確か唯一のメダリストでもあるかと思えますし、知事も雪国ということで、先ほどの国民スポーツ大会ではありませんけども、雪の魅力ということで取り組まれておられるかと思えます。ぜひそのようなことをご検討されていただければと思います。以上です。

記者

さくらんぼテレビの小鹿と申します。よろしく申し上げます。

すいません、今の件に関しまして、スケートの加藤さんの件だったんですけども、加藤条治さん、改めてその県民栄誉賞を贈られることになるそのいきさつとですね、贈られることにした一番の理由を改めて教えていただけますでしょうか。

知事

はい。加藤条治さんはですね、本当に高校時代から大変活躍をしてくださいました。国体でもそうでありまして、その後もですね、本当に世界大会であったり、オリンピックも何回も出場されて、その都度、県民のみならず国民全体に対して本当に大きな元気と活力をいただいたというふうに思っています。

それで山形県出身でありますので、早く差し上げたほうがいいんじゃないかというようなことは届いておりましたが、御本人がですね、引退をするというようなことも表明されましたし、これは早く差し上げなければというふうな思いになったということでもあります。

本当に多くの方に、県民みんなにですね、活力と元気、希望と喜びといったことを与えてくださったなと思います。子どもたちも大変大きな夢といったものをですね、持てるように、本当に素晴らしい影響をもたらしてくれたなというふうに思っています。それを称えて県民栄誉賞を差し上げたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あと、オリンピック前回大会で、山形ゆかりの森重（航）選手ですとかいろんな方が活躍されていてですね、今後、知事としてはスケートと山形、山形のスケート競技がですね、どんなふうになっていってほしいという思いをお持ちですか。

知事

雪国であり、北国でありということで、スケートとかスキーとかですね、そういったことはもっともっと、冬の間もスポーツを楽しめるという環境にあると思っています。ただ、ス

ケート場はないんですけどね、それは本当に大変申し訳ないことだなというふうに思っております。屋内リンクがないということですね。そういったことではちょっと御不便をおかけしているなというふうに思っています。

多くの県民の皆さん、子どもたちもですね、冬の間もスポーツを楽しめるというふうになっていただきたいと思えますね。

それで、スポーツというのはやはりそういうふうに世界的な檜舞台に行くという夢や希望というものも育んでくれますけれども、健康にもいいわけでありますので、日常生活の中で楽しんでいただくというようなことも合わせてですね、やはり幸せな県民生活というようなことの一環として、やはり楽しんでいただければなというふうに思っています。

記者

はい、わかりました。ありがとうございます。

記者

すいません、朝日新聞の小川です。明後日で山形新幹線30周年を迎えますが、米沢トンネル（仮称）の実現に向けてですね、今後どのように働きかけ、取り組んでいくかということをお聞かせください。

知事

そうですね。まずですね、7月1日で山形新幹線開業30周年を迎えます。本当に30年前、平成4年の7月1日でしたけれども、本当に県民皆がですね、大変な喜びの渦の中にいたというふうに思っています。いろんな思い出がたくさんあるんですけども、ただ本当に山形県民にとって、また産業界にとって、経済など、いろんな分野で本当に山形県発展のために貢献をしてくださったなというふうに思っています。現在も貢献してくれております。

それで、ただ、やはりそのスピードというのは、この30年、あんまり変わっていないんですね。ですからほんとの意味で新幹線、時速300キロというようなことを実現してですね、1時間内で首都圏と結ばれるということになると、またまったくその状況が変わってくると思います。心理的距離がさらに縮まってですね、人の交流も活発になり、移住・定住にも資するかというふうに思っているところです。

いろんなことを考えて、仮称ではありますが、米沢トンネル、ということをしっかり、未来の山形の発展のために取り組むべきだと思ってずっと取り組んできました。国会議員の遠藤（利明）先生もですね、同じような考えで、一緒にやりましょうということになってきましたので、やはり一緒になってこのトンネル実現に向けて取り組んでいきたいというふうに思っています。

現在は県とJR東日本で共同調査ということで実施しているわけであります。詳細な、具体的なところはですね、県とJRさんとのいろんなそのつながりの中で、公表できるところ

とできないところもあるかと思っています。県としてどうしていきたいかというのは、そのトンネルを実現させるためにもですね、県内のそのトンネルが実現することによって、どんなふうに県が発展するか、あるいはどんな影響を県内全域に及ぼすかというようなことを考えなきゃいけないと思っていますので、沿線活性化、沿線といってもその線路のところだけじゃなくて、本当に山形県内全域が活性化するような方向でしっかりと取り組んで、トンネル実現に向けてですね、追い風となるようにしていきたいというふうに思っております。

例を一つ二つ申し上げれば、山形駅とか米沢駅にはコワーキングスペースというようなことも設けたと聞いておりますし、そういったことが、やはりいろんな駅で駅のスペースを活用してですね、そういったことが起きて先ほどのイノベーションであったり、あと、起業・創業、ベンチャーといったことにつながればいいと思っていますし、あと、県内各地に大変おいしい名産品とかございますので、そういった季節のおいしいものをですね、しっかりその鉄道で輸送するというようなことを取り組んで、トンネル実現に向けての追い風にしていきたいというふうに思っています。